

奨励賞の個人賞のあり方について

基金 2 1 の奨励賞は今年度の選考も含め 7 5 件が選考されているが、団体が 7 1 団体、個人が 4 名となっている。かながわ県民活動サポートセンターのビジョンの見直しの中で中間支援組織への支援を今後強化するとなっており、より広域自治体である県の役割が明確にされている。基金 2 1 の奨励賞の個人賞のあり方についてご議論いただきたい。

【奨励賞応募要領】

1 表彰される者（被表彰者）の要件

■ 次のすべての要件に該当する団体等

- ① 不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする非営利の事業（いわゆる宗教活動、政治活動、選挙活動を目的とする事業は除きます。）に自主的に取り組む特定非営利活動法人、法人格を持たない団体及び個人（以下「ボランティア団体等」といいます。）
- ② 活動拠点を県内に有すること
（県内に事務所があるか、又は県内で活動を行っているボランティア団体等を対象とします。）
- ③ 継続した活動が期待されるものであること
- ④ 代表者等が暴力団員でないこと（神奈川県暴力団排除条例による）

2 対象となる団体等

- 他のモデルとなるような実践的な活動で、地域社会への貢献度が高く、今後さらに継続発展が期待できる活動に自主的に取り組んでいるボランティア団体等が推薦の対象となります。

【個人賞の受賞者】

氏 名	住 所	受賞年度
有川 百合子	横浜市戸塚区	H15
ヒロコ・ムトー（本名 相澤 紘子）	横浜市港北区	H21
神 幸雄	川崎市高津区	H24
杉田 勇	横浜市神奈川区	H25

【副賞の予算額】

平成28年度 団体80万円×5本=400万円

平成29年度 団体50万円×3本=150万円

3) ボランティア活動奨励賞

番号	団体名等	所在地	副賞金額 (単位：千円)	対象 年度
1	信愛塾	横浜市南区	800	H13
2	寿支援者交流会	横浜市中区	800	
3	アジアの女性と子どもネットワーク	横浜市中区	800	
4	特定非営利活動法人 パーソナルサービスセンター トムトム	茅ヶ崎市	800	
5	フリースペース たまりば	川崎市高津区	800	
6	リリーフクラブ	横浜市南区	800	H14
7	子育て支援グループ ゆめこびと	藤沢市	800	
8	インドシナ難民の明日を考える会	東京都	800	
9	ボランティア会 ランパス	横浜市旭区	800	
10	カラバオの会 (寿・外国人出稼ぎ労働者と連帯する会)	横浜市中区	800	
11	有川百合子	横浜市戸塚区	400	H15
12	特定非営利活動法人 ままとんきっず	川崎市多摩区	800	
13	特定非営利活動法人 川崎水曜パトロールの会	川崎市川崎区	800	
14	特定非営利活動法人 ベガスの家	足柄上郡山北町	800	
15	サルサガムテープ	茅ヶ崎市	800	
16	コトバノアトリエ	東京都板橋区	800	H16
17	特定非営利活動法人 I Love つづき	横浜市都筑区	800	
18	特定非営利活動法人 聴導犬育成の会	鎌倉市	800	
19	特定非営利活動法人 かわさき自然調査団	川崎市宮前区	800	
20	平間わんぱく少年団	川崎市中原区	800	
21	ジョブコーチプラス1	横浜市青葉区	800	H17
22	多文化まちづくり工房	横浜市泉区	800	
23	劇団湘南山猫	藤沢市	800	
24	ほっと茅ヶ崎準備室	茅ヶ崎市	800	
25	よみきかせボランティアグループ おはなしばる〜ん	伊勢原市	800	
26	特定非営利活動法人 さなぎ達	横浜市中区	800	H18
27	特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン	藤沢市	800	
28	きこり会	相模原市	800	
29	特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜	横浜市中区	800	
30	パレスチナのハート アートプロジェクト	相模原市	800	


番号	団体名等	所在地	副賞金額 (単位：千円)	対象 年度
31	特定非営利活動法人 神奈川子ども未来ファンド	横浜市中区	800	H19
32	特定非営利活動法人 子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク	伊勢原市	800	
33	カラカサナー移住女性のためのエンパワメントセンター	川崎市幸区	800	
34	特定非営利活動法人 よこはまチャイルドライン	横浜市保土ヶ谷区	800	
35	精神保健ボランティアグループ ひびき	相模原市	800	
36	宇宙船（不登校から学ぶ会）	横浜市栄区	800	H20
37	特定非営利活動法人 平塚・暮らしと耐震協議会	平塚市	800	
38	ステップ国際理解	横浜市戸塚区	800	
39	エコサーファー	藤沢市	800	
40	知的障害者スポーツクラブ アスリートクラブ藤沢	藤沢市	800	
41	ヒロコ・ムトー（本名 相澤 紘子）	横浜市港北区	400	H21
42	なでしこ防災ネット	秦野市	800	
43	こどもの本のみせ ともだち	横浜市港北区	800	
44	特定非営利活動法人 峠工房	横浜市泉区	800	
45	GLOBE PROJECT	横浜市南区	800	
46	藤沢ウイングバスケットボールクラブ	横浜市旭区	800	H22
47	朋ボランティアグループ	鎌倉市	800	
48	「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク	相模原市南区	800	
49	日吉台地下壕保存の会	横浜市港北区	800	
50	紙芝居文化推進協議会	横浜市中区	800	
51	全国訪問ボランティアナースの会 キャンナス	藤沢市	800	H23
52	ユニバーサル絵本ライブラリー U n i L e a f	三浦郡葉山町	800	
53	ヨコハマらいぶシネマ	横浜市港北区	800	
54	C R I -Children's Resources International (チルドレンズ・リソース・インターナショナル)	平塚市	800	
55	まちづくり工房「しお風」	中郡二宮町	800	
56	特定非営利活動法人 寿クリーンセンター	横浜市中区	800	H24
57	特定非営利活動法人 いこいの家 夢みん	横浜市戸塚区	800	
58	特定非営利活動法人 イランの障害者を支援するミントの会	秦野市	800	
59	瀬谷区知的障害理解啓発グループ ant mama	横浜市瀬谷区	800	
60	神 幸雄（個人）	川崎市高津区	400	
61	A Lサインプロジェクト	藤沢市	800	

番号	団体名等	所在地	副賞金額 (単位：千円)	対象 年度
62	杉田 勇	横浜市神奈川区	400	H25
63	全国障害学生支援センター	相模原市南区	800	
64	鎌倉子育てガイド	鎌倉市	800	
65	愛川国際交流クラブ	愛甲郡愛川町	800	
66	横浜障害児を守る連絡協議会	横浜市港北区	800	H26
67	特定非営利活動法人かながわ難民定住援助協会	大和市	800	
68	特定非営利活動法人ギャンブル依存ファミリーセンターホープヒル	横浜市旭区	800	
69	馬入水辺の楽校の会	平塚市	800	
70	NPO法人子育て支えあいネットワーク満	川崎市中原区	800	
71	特定非営利活動法人やさしくなろうよ	海老名市	800	H27
72	こども邦楽育成会	秦野市	800	
73	特定非営利活動法人地球の木	横浜市中区	800	
74	特定非営利活動法人森ノオト	横浜市青葉区	800	
75	NPO法人教育支援グループE d. ベンチャー	大和市	800	

掲載日：2010年8月20日

子どもたちへの、いじめの克服と生きる勇気を与えるための朗読講演活動

ヒロコ・ムトー

ボランティア活動奨励賞受賞内容	
対象年度	平成21年度
活動分野	子どもの健全育成
活動開始時期	平成19年5月
活動概要	<p>【子どもたちへの、いじめの克服と生きる勇気を与えるための朗読講演活動】 いじめの問題にぶつかる中学生を中心とする子どもたちを対象に、「心の宅急便」と呼ばれる朗読講演会を行うことにより、「いまのままのあなたがいい」という自己肯定のメッセージを届けるとともに生きる勇気を伝える活動を行っている。</p> <p>「いまのままのあなたがいい」を伝える講演活動</p> 
選考の視点	自身の経験と才能を生かした独自のスタイルで、いじめの問題の克服に個人で立ち向かっている姿勢は高く評価できる。学校現場において、校内に受け入れられる突破口を開いてきた点も評価できる。個人でありながら素晴らしい活動を行っていることは、子どもたちはもとより教育関係者や保護者たちに大きな影響を与えており、この活動が形は違ってても周囲の人々に引き継がれて広がっていくことを期待する
副賞金額	400,000円

団体基本情報	
個人名	ヒロコ・ムトー
所在地	横浜市港北区

神奈川県

このページの所管所属は [かながわ県民活動サポートセンター](#) です。

掲載日：2013年5月10日

神 幸雄 (個人)

神 幸雄 (個人)

ボランティア活動奨励賞受賞内容	
対象年度	平成24年度
活動分野	学術、文化、芸術又はスポーツの振興
活動開始時期	1997年4月
活動概要	CPサッカー（脳性まひ者7人制サッカー）の普及・発展 日本で初めてパラリンピック正式種目であるCPサッカー（脳性まひ者7人制サッカー）チームを立ち上げ自ら選手として活躍するだけでなく、「日本脳性麻痺7人制サッカー協会」の設立にかかわり、日本代表監督に就任するなど、指導者としても活動し、CPサッカーの普及・発展に努めている。
選考理由	障害当事者として、日本脳性麻痺7人制サッカー協会の設立に尽力し、同協会を設立したほか、自ら指導者資格を取得するなどの姿勢は、障害者スポーツのパイオニア的存在であり、高く評価する。 受賞により、障害者スポーツ競技のさらなる発展と支援の輪の広がりを期待できる。
副賞金額	40万円

基本情報	
名称	神 幸雄 (個人)
代表者	同上
所在地	川崎市高津区

神奈川県

このページの所管所属は [かながわ県民活動サポートセンター](#) です。



杉田 勇さん

横浜市内の公園や老人福祉施設、幼稚園等で電動車いすに乗りながら紙芝居を行う杉田勇さんにお話を伺った。

【ボランティア活動奨励賞】

電動車いす紙芝居おじさん

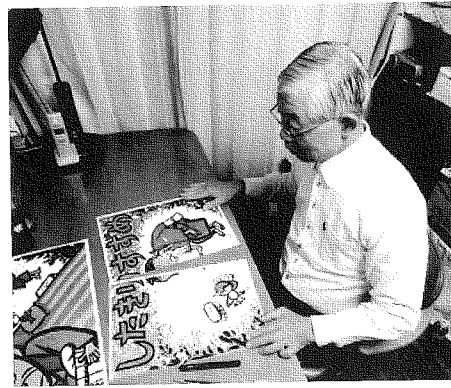
杉田 勇

引つ込み思案だった杉田さん

今でこそ人前で話すのが大好きな杉田さんだが、子どもの頃は全く逆で、引つ込み思案で消極的、とても内向的な性格だった。人と話すことに恐怖感すらあり、自分から何かをすることはなかった。自身の障がいを感じて、人との違いに悩んだりもした。しかし、小学校を卒業する際に担任の先生から言われた「中学に行ったら自分の殻を破りなさい」という一言が効いた。それをきっかけに引つ込み思案な自分を変えようと努力し、時間はかかったが次第に積極性を身に付けていった。21歳の時には県内の障がいを持つ仲間と肢体不自由者青年会という障がい者サークルを立上げ、その会長になるまでになった。そこで人前に出る楽しさ、人前で話すことの面白さに魅了された。

引つ込み思案な杉田さんだったが、何かを作ることが得意で、特に絵を描くことが大好きだった。郵便局に勤務していた頃は、宣伝用のポスター作りも任されていた。そうした特技を活かし、杉田さんの紙芝居には様々な工夫が施されている。既成の紙芝居はサイズが小さく、大人数での鑑賞になると後方の人が見づらくなってしまふ。そ

こで杉田さんは従来のB4判の紙芝居ではなく、それよりも大きなB3判の紙芝居を自らの手で製作している。またBGMを流して場面を盛り上げる演出も杉田さんの得意とするところだ。



紙芝居を製作中の杉田さん

活動の大変さ、喜び

車いすに機材を積んで出かけるが、機材の総重量は10キロにもなり不自由な体でそれを運ぶ作業はとても大変だ。それによって体に影響があつてはいけないが、無理がないギリギリの範囲で頑張る。脊柱間狭窄症という持病を抱えているため、疲れないようにコルセットをするなど様々な工夫をしている。また、車いすでの移動は交通安全にも随分気を使う。車や自転車、歩行者に衝突しないように考えながらの

移動は、上演場所の山下公園まで往復3時間もかかる。上演を終え帰宅すると、今日も無事に帰って来られたなとつくづく思う。

しかし苦勞を乗り越えて、何か得るものがあるからこそまで続けられた。上演後は、子どもや保護者との様々な会話が生まれる。そこで、観客から「楽しかったよ」「ありがとう」という声を聞くのが何よりもうれしい。

普段の生活では、エレベーターや電車の乗り降りなど、いつも周囲が手を差し伸べてくれ、自分が「ありがとう」と言っている。しかし、紙芝居が終わった後は、逆に皆から「ありがとう」が返ってくる。「これまでの人生の中で、常に自分がありがとうと言ってきたが、紙芝居の後は人からありがとうと言ってもらえる。これがうれしい」と杉田さんは語る。そうした感謝の声が、杉田さんの人生における希望や生きがいになっている。だから上演後に一人で言う片付けも全く苦にならず、充実感だけが残る。体は疲れているけれども、皆から元氣をもらい、また来ようという気持ちになる。その繰り返しだ。苦勞を乗り越えた感動や喜びが、紙芝居の中から得られるのだ。昨年7月にはついに200回上演を達成した。



山下公園での上演

奨励賞を受賞して

間い合わせ、特に高齢者施設からの上演依頼が増えた。認知症のお年寄りが、紙芝居を見て幼少年期を思い出し、皆懐かしがって喜んでくれる。「黄金バット」は特に人気で、皆、小さい頃の当時を思い出すようだ。ここぞという時に太鼓をドンドンと鳴らすと、ワーンと拍手と歓声が起きる。その場にいる30人位の入所者が、完全に昔を思い出したように見えた。「アメを舂めながら見た」とか、「この場面で拍子木をカチカチたたいた」とか、次々に話し出す。これはすごいなと思った。身内の名前も忘れていたような方々が、次回の上演を楽しみに待っていてくれ、杉

田さんの名前を覚えていてくれる。今後は、もつと多くの高齢者施設で上演したいと考えている。観衆は皆車いすの高齢者で前に詰めることが出来ないため、ここでも杉田さん自作の大きな紙芝居が役に立つ。

日本文化としての紙芝居

外国人が沢山訪れる山下公園で上演すると、多くの外国人が足をとめて杉田さんの紙芝居に見入っている。平絵の紙芝居は1930年代に日本で誕生し、世界でも例がないという。我々日本人から見ても、紙芝居は日本文化という意識は薄い。紙芝居を見たことがない外国人にとっては、まさに日本文化であり、不思議と驚きの目で見入っている。戦後、テレビや諸種のレジャー産業などの紙芝居に変わる娯楽の登場により、街頭から紙芝居は消え、その演じ手も少なくなった。この紙芝居をもう一度見直し、日本の伝統文化として海外に広めていきたい。外国人が多く訪れる山下公園は日本文化を発信するには絶好の場所である。いつの日か、紙芝居をユネスコの無形文化遺産に登録させたいと杉田さんは考えている。

人生への挑戦と開拓

奨励賞の選考理由の中にあつた「障がいのあるなしにかかわらず、個人による社会貢献活動のモデルになる」という言葉が本心にうれしかった。自分にはたまたま障がいがあるが、それによってにチャレンジする気持ちを失いたくはない。人のやっていないこと、新しい世界にいつまでも挑戦していきたい。「障がいがあると周りの人に手伝わしてもらおう中で、どうしても甘えが出てしまう。何事も自分が出ると思つたこと、やりたいことは自ら行動するべきだ。その勇氣・決断を障がい者の皆さんには強く持つていただきたい。その気持ちを持つていければ、沢山のやりたいことや夢が実現する。是非、障が

いや病気があるからとあきらめず、新しい世界を切り拓いていくという強い勇氣を持つていただきたい。」と語る杉田さんのモットーは「誰かを待たなくても道は拓かれない。自ら行動すること」である。

たいことや夢が実現する。是非、障が



200回上演を達成した杉田さん

<受賞者情報>

受賞者名：杉田 勇
 活動開始時期：平成21年5月
 TEL：045-381-8026
 FAX：045-381-8026
 [E-mail] isamu0612@chive.ocn.ne.jp
 活動地域：横浜市
 活動分野：子どもの健全育成
 活動概要：地域に伝わるオリジナル作品を含む紙芝居をさまざまな工夫をこらしながら、横浜市内の公園や老人福祉施設等で数多く上演している。